

# 新型コロナは消滅しないが、将来ただの風邪になる？

## 米研究者らが発表

ヘルスデーニュース



COVID-19 は将来ただの風邪になる？

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) に関する残念なニュースがある。今後も長い間、新型コロナウイルスがいなくなる可能性は低いとする分析結果を、米エモリー大学などの研究グループが発表したのだ。一方、良いニュースもある。同グループの分析では、今後ウイルスがいなくなることはないが、感染しても入院や死に至ることはまれで、煩わしさや不快感をもたらすだけの軽い病気になる可能性が高いことも分かったという。詳細は、「Science」に 1 月 12 日掲載された。

この分析結果は、一般的な風邪の原因ウイルスである 4 種類のヒトコロナウイルスが辿った疫学的パターンに基づき得られたものだ。これらのウイルスはいずれも、すでに長期間、世の中に残り続けており、普段から継続的に罹患する人がいる「エンデミック」の状態にある。エンデミックの段階では、ほとんどの人が小児期にウイルスに感染して免疫を獲得し、成人期には重症化リスクから守られるという。

研究論文の筆頭著者である、同大学生物学部の Jennie Lavine 氏は、「成人の風邪の約 15% は、これらのエンデミックの状態にあるヒトコロナウイルスによるものだ。ヒトコロナウイルスに感

染しても、大多数の人ではよくある風邪の症状、つまり上気道感染の症状が生じるだけだ」と説明する。ただし、低年齢児や高齢者など一部の人では、まれに重症化することもあるという。

研究グループは今回、これら 4 種類のヒトコロナウイルスと同様、ほとんどの人が小児期に新型コロナウイルスに曝露(ばくろ)した場合に、将来的に予測される状況をモデル化した。

その結果、COVID-19 がエンデミックの状態に達すれば、感染者致死率は季節性インフルエンザと同程度(0.1%)にまで下がり、最終的にはヒトコロナウイルスを原因とする風邪と同じようなものになる可能性が高いと予測された。ただし、それがいつになるのかに関しては、1 年とする見方がある一方で、10 年はかかるとする見方もあり、現時点では予測困難だとしている。

また、新型コロナウイルスが、いずれは軽症の風邪の症状をもたらすだけになるというこのシナリオは、小児や若者のほとんどは感染しても軽症、あるいは無症候であることを前提としたものだ。それゆえ、今後、このウイルスに感染した小児でも重い症状が現れるようになった場合には、「長期的なシナリオは暗いものになる」と Lavine 氏は言う。

Lavine 氏は、今後 COVID-19 が迎える経過を左右し得る複数の要素を挙げている。その一つは、この先の新型コロナウイルスが広がるスピードだ。また、今後、数カ月間にどれだけの人がワクチンを接種できるかも関わってくるという。

さらに Lavine 氏は、強力かつ持続的な免疫を獲得するために必要な感染者数とワクチン接種者数は現時点では不明だと話す。そのほか、自然感染あるいはワクチン接種でウイルスの伝播をどの程度封じ込めることができるのか、これらによって感染後の重症化リスクをどの程度の期間、低減できるのかも解明されていないとしている。

ただ、エンデミックの段階に至る道のりに、人々が影響を与えることは可能だという。「例えば、ワクチンの接種が広がるまでの間、できる限り感染率を低く抑え、死亡者を減らすとともに医療崩壊が生じないようにする、また、重症化リスクが高い人を中心にワクチンを接種する、といった対策が今後を左右する」と Lavine 氏は話している。(HealthDay News 2021年1月14日)

<https://consumer.healthday.com/1-1-14-what-will-covid-19-look-like-years-from-now-2649911191.html>